

令和元年度 第3回沼田市地域公共交通会議会議録

- 1 日 時 令和2年1月14日（火）13時28分～13時59分
- 2 場 所 テラスぬまた4階 防災会議室403
- 3 出席者 五十嵐会長 外委員9名（別紙のとおり）
- 4 会議の概要

定足数については委員14名中、10名出席であり、会議は成立した。

傍聴者なし。会議の結果は、沼田市公式ホームページ上で公開することについて確認。

（1）協議事項

1) 令和元年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係る事業評価について

①内 容（「資料」1～10ページ）

協議事項（1）令和元年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係る事業評価について、資料1ページから10ページまでが関東運輸局から示された様式及び参考資料として作成したもの。次第1ページについて、①が運行事業者である関越交通株式会社、②の事業概要については対象となる路線名や運行日数などを記載してある。

③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況について、前回、「他路線との接続状況、乗継時の負担軽減等を踏まえて経路検討を行うこと」や「地域内交通をより多くの人に知ってもらい、多くの人に利用してもらう工夫が必要」との評価がされたため、「テラスぬまた」を経由する運行経路変更のことで、バスの乗り方教室開催のことを記載した。

④の事業実施の適切性について、事業が適切に実施されたかにより、A、B、Cの3段階で評価を行う。事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された場合A、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった場合B、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった場合Cとなる。②で示した事業概要は計画のとおりだったためAとした。

⑤目標・効果達成状況について、こちらも④と同様にA、B、Cの3段階で評価を行う。策定した計画の目標について、1つ目が輸送容量195人、2つ目が1日あたりの乗車人数41人、3つ目が収支割合20.7%、4つ目が臨時運行の周知、5つ目には経路変更の周知としている。また、効果については、現在徒歩で通院している交通弱者への交通手段を確保することにより、医療ニーズへの充足を図る。沼須町から市街地への交通手段を確保することにより、日常生活の利便性の向上を図るの

2点をあげている。事業実施の結果、1日あたりの乗車人数は33.3人、収支割合は22.9%となり、乗車人数は目標を下回ってしまった。主な目的地である利根中央病院に確認したところ、外来患者数は前年並みであり、割合として内科・小児科受診者が増加したとのことから、家族の送迎や通院支援等、沼須線以外の手段で通院する患者の割合が増加したことが目標を達成できなかった要因と考えられる。バス停別の乗降調査から病院の最寄りバス停に乗降が集中しており、本事業による、医療ニーズへの充足を図るという効果は認められると評価した。また車両の減価償却費補助等については計画どおり達成した。目標を達成できた項目と達成できなかった項目があるため、評価はBとした。

⑥事業の今後の改善点について、バス停別の乗降調査により、起終点及び病院の最寄りのバス停に乗降が集中しており、通院が主な利用目的であることがわかる。時間帯によって乗降者人数に偏りがあることから、通院支援事業を行っている組合とも情報交換をしながら、より通院者が利用しやすくなるよう見直しを行っていくことと、利用促進を図るため、病院に協力を要請し、引き続き時刻表等を配布していくことを掲げた。

資料2ページの事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について、沼田市全体の公共交通と沼須線の現況を記載した。本事業は地域医療にとって大きな役割を果たしていた利根中央病院が公共交通空白地域に移転することになり、高齢者など交通弱者の移動手段を確保することを目的としている。本地域では鎌田線等の営業路線が地域間幹線として走っており、委託路線とあわせて利用しやすいネットワーク形成を図ることも記載している。

資料3ページから10ページは事業及び事業評価の概要。3ページの地域公共交通の現況について、既存の事業者などの記載をしてある。事業の目的・必要性について、策定した計画の内容を記載している。資料右側に記載してある沼田市の概要では、高齢化率33.2%であり、前回事業評価を行った時の高齢化率は32.4%だったため、沼田市は高齢化が進み、高齢者の通院手段の確保は重要であると言える。

事業の概要について、先ほど説明したとおり。また、協議会の開催状況について、本日を含めて3回を記載した。

資料4ページについて、大部分が先ほど説明したとおり。アピールポイントとして、沼須線は利根中央病院への貴重な交通手段となっていることを記載している。

資料5ページの目標・効果達成状況と事業の今後の改善点について、先ほど説明したとおり。

事業評価提出後、関東運輸局などとの調整で表現の訂正などがあるか

もしれないが、ご了解いただきたい。

(質疑応答)

委員：資料8ページの運行実績について、平成29年度と平成30年度を比較すると、輸送人員は減少しているのに対し、1運行あたり輸送人員は増えているが、どういうことか。

事務局：平成30年3月に系統の変更を行った関係で、計算に用いる運行回数に変更が生じているためである。

委員：単純に比較できるのは平成30年度以降ということか。

事務局：そのようになる。

会長：いずれにせよ、月別の輸送人員を見ると減少傾向にある。事務局としては、この原因をどう考えるか。

事務局：通院支援は各病院が力を入れて行っているようなので、その利用者が増えていることが一つの大きな要因ではないかと考えている。

委員：今回、計画を下回っているので、必要に応じて来年度の計画を見直すことも必要である。資料1ページ⑥事業の今後の改善点について、通院支援が要因と分析されたことから、病院と連携する等の具体的な対策は考えられているか。

事務局：そこまではまだ検討できていない。

委員：原因が分析できたのならば、来年度はどうしていくかを⑥事業の今後の改善点に記載してもらいたい。乗車人数が減少することがやむを得ないとするのであれば、来年度の目標値を低く見積もる等、来年度に反映できるような内容を記載してもらいたい。

事務局：各病院が利用者を確保するために利便性の高い送迎を実施しているので、そこにバスを追いつかせるとするのは難しい。毎年の計画や目標の中には反映していきたい。

委員：最初の会長の挨拶で「まちづくり」と言っていたように、人口が減少して、病院が送迎を行っているのであれば、その部分は路線バスを運行させないという効率化もあるかもしれない。

委員：病院の送迎は無料か、有料か。

事務局：無料と聞いている。

委員：グレーな運送行為であると思うので、病院がどういった運営をしているかどうかを調べた方がいいと考える。

事務局：利根中央病院については、組合員を対象としている。他の病院については、詳しくはわからない。

委員：病院はお客を囲うために送迎を行っているのだと思うが、どこまで無料なのか。白タクに近い運送を行っているのであれば困る。

会長：資料1ページ⑥事業の今後の改善点を修正することと、医療機関等の実態を調べるということを事務局にお願いしたい。修正内容の確認はどうするのか。

事務局：改めて書面を送付する。

2) 佐山線車両の代替について

資料11ページについて、現在、小型10人乗りの車両で運行している佐山線の車両を、新規の同型車両に代替する。

委員：いつ頃から運行開始と考えているか。

事務局：準備が調い次第、年度内を考えている。

〈協議結果〉

- 1) 令和元年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について、一部修正することとなった。
- 2) 佐山線車両の代替について、質疑応答の後、諮った結果、異議なく原案のとおり承認された。